

地域の子どもたちが遊べるように 大学生がツリーハウスを手づくり

2月23日、立命館大学で建築を学ぶ学生たち80人が丹波悠遊の森にツリーハウスを作り、地域の人たちにお披露目する完成イベントが行われました。

平成25年に始まったこの取り組みは今回が3回目、今年は「子どもが遊べるツリーハウス」を目指して設計されました。代表の富村郁斗さんは「多くの人に使ってほしい」と話しました。



完成したツリーハウスで遊ぶ子どもたち

伝統文化を通じた交流を 中国から視察団が来丹

2月25日、中国景徳鎮市から6人の市政府職員が丹波市を訪問し、市のまちづくりについての懇談や、柏原藩陣屋跡・植野記念美術館などの視察を行いました。今回の訪問は、来年2月に開催予定の植野記念美術館25周年記念の「景徳鎮展」開催にあたり実現しました。

景徳鎮市の担当者は、「丹波市との交流が生まれるきっかけになったら嬉しい」と話しました。



美術館の喫茶室で、美術館職員の説明を聞く視察団

新しい学びに挑戦！ プログラミング教室を実施



真剣な表情でパソコンを操作する青垣小3年の児童

2月26日、2020年から必修となる「プログラミング教育」に興味を持ってもらおうと、青垣小学校で(株)うちゅうによるプログラミング教室が行われました。

講師から生活の中でプログラミングがどのように生かされ、未来がどう変わるのかを説明された児童は、「プログラミングのルールも分かったし、面白かった」と笑顔で授業を振り返りました。

明智光秀ゆかりの地をPR 厄除大祭で観光キャンペーン



甲冑姿でPR紙袋を配るメンバー

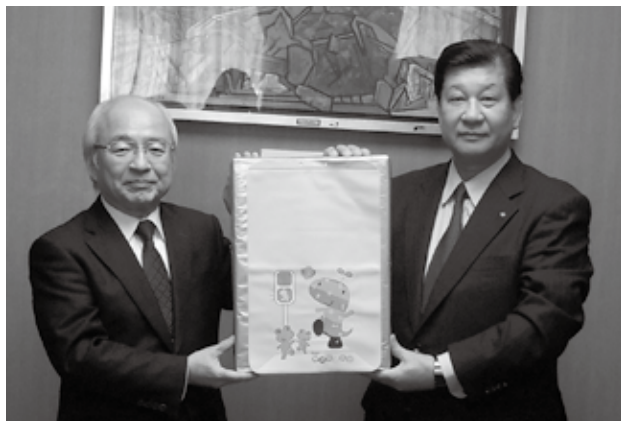
2月17日、柏原厄除大祭で賑わう会場で、観光協会と黒井城跡地域活性化委員会のメンバーが、甲冑姿で明智光秀や赤井(荻野)直正のイラストが入った紙袋や観光パンフレットを配りました。

大河ドラマ「麒麟がくる」の主人公、明智光秀ゆかりの地を多くの人に知ってもらうことが目的です。多くの観光客が、足を止めて甲冑姿のメンバーらと楽しそうに記念写真を撮っていました。

丹波交通安全協会が ランドセルカバーを寄付

3月8日、慣れない通学路での交通事故から新1年生を守るため、丹波交通安全協会からランドセルカバーが寄付されました。平成31年度の新入生全481人分です。

丹波交通安全協会会長の石川憲幸さんは、「新1年生の子どもたちが安全に、安心して登校できるよう使ってほしい。」と新1年生にエールを送りました。



ランドセルカバーを渡す石川会長(写真右)と岸田教育長

大空高く舞い上げれ♪ ぐにゃ風作って風あげ大会

2月24日、氷上住民センターで、野遊び研究家の山崎春人さんの指導で「ぐにゃ風」を作って、あげるイベントがありました。ぐにゃ風は、ポリ袋など身近なもので作ることでできる風です。

中央小学校の運動場で実施された風あげ大会では、子どもたちが元気に走りまわって、決められたひもの長さまで何秒で風を揚げられるかを競い合いました。



運動場をかけ回り、制作した風をあげる参加者

立派な看護師になります！ 看護専門学校で卒業式を実施



「卒業生のことば」を述べる代表の今村さん

3月8日、丹波市立看護専門学校で卒業式が行われ、38人の学生がそれぞれの道に歩みを進めました。9月からは新病院の隣に建設中の新校舎に学び舎を移すため、現在の場所で卒業を迎えるのは今年度が最後になります。

卒業生代表の今村悠希さんは、「患者に近い存在として寄り添い、患者の思いを汲み取れる立派な看護師になりたい」と決意を述べました。

丹波の医療をみんなで守ろう！ 地域医療シンポジウム開催



医療とまちづくりについて意見交換するパネリスト

2月24日、新病院「県立丹波医療センター(仮称)」や丹波市健康センターミルネが7月にオープンするのを記念して、「地域医療シンポジウム」が丹波の森公苑で開催されました。

「これからの医療とまちづくり」をテーマに行われたパネルディスカッションでは、「ミルネで健診を受け、健康に過ごすことが地域医療を守ることになる」などの意見が出されました。